

設問別調査結果 [中学校国語A:主として知識]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	2	○	87.7
	書くこと	4	○	88.1
	読むこと	5	○	65.4
	言語事項	21	○	73.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	0		
	話す・聞く能力	2	○	87.7
	書く能力	4	○	88.1
	読む能力	5	○	65.4
	言語についての知識・理解・技能	21	○	73.7
問題形式	選択式	16	○	76.1
	短答式	16	○	74.1
	記述式	0		

表中の札幌市と全国との比較における記号は以下の基準により表記した。
 ○・・・+3.1ポイント以上
 ◇・・・+0.1ポイント～3.0ポイント
 -・・・ほぼ同程度
 ◆・・・-0.1ポイント～-3.0ポイント
 ●・・・-3.1ポイント以下

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			札幌市		全国(公立)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	無解答率(%)
1-1	指示棒が指す箇所として適切なものを選択する	自分の話を聞き手に理解してもらえらるるよう、資料を用いて話す	○						○						◆	0.5	85.4	0.3
1-2	話題が変わる箇所として適切なものを選択する	聞の取り方に注意して話す				○					○				○	0.4	85.0	0.4
2-1	手紙の冒頭の最初に書かれる言葉の名称として適切なものを選択する	手紙の形式を理解して書く		○					○						◆	0.4	89.2	0.4
2-2	時候の挨拶に書き足した文の説明として適切なものを選択する	相手に応じて文章を書き直す		○					○						○	0.5	84.9	0.5
3-1	『よく熟した夏ミカン』に対応する東京の情景を本文中から抜き出す	比喩を手際よくしながら文脈をたどり、内容を理解する				○					○				◆	2.3	85.9	2.3
3-2	『この村の月は、まるでよく熟した夏ミカンだ』に使われている表現の技法の名称を書く	比喩という言葉と結び付けて、表現の仕方を理解する				○					○				○	11.5	40.4	18.3
4-1	『難易度が高くなるので』を聞き手に分かりやすい表現に直す	聞き手や場面を意識して、適切な語句を選択して話す	○						○						○	1.8	90.1	2.0
4-2	『生徒会活動(小学校……児童会活動)』を場に応じた話し言葉にする	話し言葉と書き言葉との違いを理解し、適切に使う				○					○				○	6.1	47.1	7.7
5-1	文章の特徴として適切なものを選択する	伝えたい事柄を明確にして書く							○						○	0.6	90.6	0.6
5-2	文脈について説明する一文を書き加える	必要な情報が相手に伝わるように説明する							○						○	2.3	87.8	3.6
6-1	『このような現象』が何と呼ばれているかき本文の中から抜き出す	文章の展開に即して内容を捉える				○					○				○	2.6	68.1	3.1
6-2	取扱い絵表示の内容に加えて気を付けなければならないこととして適切なものを選択する	目的に応じて必要な情報を読み取る				○					○				○	0.7	40.3	0.6

7-1	漢字を書く（地域の人をシヨウタイする）									○								●	15.9	51.5	14.7
7-2	漢字を書く（メートルは長さのセンチである）	文脈に即して漢字を正しく書く								○								◇	5.9	86.1	7.4
7-3	漢字を書く（鉛筆を巻く）									○								●	6.2	89.3	5.7
7-21	漢字を読む（考えに相違がある）									○								●	11.0	64.5	12.5
7-22	漢字を読む（不純物が沈殿する）	文脈に即して漢字を正しく読む								○								◇	4.2	84.6	6.6
7-23	漢字を読む（会議で決を採る）									○								◇	3.8	73.8	4.8
7-2ア	適切な語句を選択する（このカーテンの色は部屋の雰囲気とよく調和している）									○								◇	0.7	82.6	0.7
7-2イ	適切な敬語を選択する（先生が、私の家に来らっしゃる）									○								◇	0.7	88.0	0.6
7-2ウ	適切な語句を選択する（弟を手塚にかけて着てる）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う								○								◇	1.0	60.6	1.1
7-2エ	適切な語句を選択する（たなびく雲の間から、春の光がもれている）									○								◇	0.8	46.9	0.8
7-2オ	適切な語句を選択する（いかなる困難にもひるむことなく仕事を遂げた）									○								◇	0.9	93.5	0.7
7-2ア	適切な対義語を選択する（受償）	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う								○								◇	0.8	87.5	0.7
7-2イ	適切な対義語を選択する（理想）									○								◇	0.7	66.3	0.8
7-5	はがきの書き方を書く	はがきの書き方を理解して書く								○								◇	2.4	75.7	2.7
7-61	ローマ字で書く（たけくらべ）	ひらがなで表記された作品名をローマ字で書く								○								◇	1.8	88.8	2.3
7-62	ローマ字を読む（Tosa nikki）	ローマ字で表記された作品名を読み、ひらがなと漢字で正しく書く								○								◇	3.3	81.9	4.2
7-71	「踏むじやう」を漢字で書いたものとして適切なものを選択する	抽象的な概念を表す語句について理解する								○								◇	0.9	67.0	1.1
7-72	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（あらはす）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む								○								◇	2.2	92.4	3.5
7-81	漢字の音読みと訓読みの説明として適切なものを選択する	漢字の音読みと訓読みについて理解する								○								◇	1.0	72.0	1.3
7-82	漢和辞典の「意味」の中から、「眼光」の「光」の意味として適切なものを選択する	辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉える								○								◇	1.2	76.4	1.6

【設問別分析】

1 資料を使って話す

1 は、資料を使って話す際に、自分の話を聞き手に理解してもらえるように、資料を用いて話すこと、間の取り方に注意して話すことができるかどうかをみるものである。設問一では、自分の話を聞き手に理解してもらえるように、資料を用いて話すことができるかどうかについて、設問二では、間の取り方に注意して話すことができるかどうかについて、それぞれ選択式で問われている。

【設問一】自分の話を聞き手に理解してもらえるように資料を用いて話すこと

- ・指示棒が指す箇所として適切なものを選択する設問では、正答率が高いものの、全国の平均正答率と比べて、やや下回っている。

【設問二】間の取り方に注意して話すこと

- ・話題が変わる箇所として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っており、正答率も高い。

「話すこと・聞くこと」領域における、「自分の考えや気持ちを相手に理解してもらえるように話したり、話し手の意図を考えながら話の内容を聞き取ったりすること。」については、正答率が高いものの、全国の平均正答率と比べて、やや下回っている。「言語事項(1)」における、「話す速度や音量、言葉の調子や間のとり方などに注意すること。」については、全国の平均正答率と比べて、やや上回っており、正答率も高い。

話すことの学習の際には、聞き手に分かりやすく伝えるために、場面や状況に応じて話す速度や間の取り方などを工夫することや、資料を使って話す際には、目的や相手、場面に応じて、資料の内容、文字や図表の大きさ、提示するタイミングなどを工夫するように指導することが引き続き大切である。

2 手紙を書く

②は、手紙を書く際に、手紙の形式を理解して書くこと、相手に応じて文章を書き直すことができるかどうかをみるものである。設問一では、手紙の形式を理解して書くことができるかどうかについて、設問二では、相手に応じて文章を書き直すことができるかどうかについて、それぞれ選択式で問われている。

【設問一】手紙の形式を理解して書くこと

- ・手紙の前文の最初に書かれる言葉の名称として適切なものを選択する設問では、正答率が高いものの、全国の平均正答率と比べて、やや下回っている。

【設問二】相手に応じて文章を書き直すこと

- ・時候の挨拶に書き足した文の説明として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

「書くこと」領域における、「文章の形態に応じて適切な構成を工夫すること。」については、正答率が高いものの、全国の平均正答率と比べて、やや下回っている。また、「書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。」については、全国の平均正答率と比べて、やや上回っており、正答率も高い。

手紙を書くことの指導においては、手紙の基本的な形式について理解させるとともに、手紙の形式がもつ意味を考えさせることが引き続き大切である。例えば、頭語・結語・時候の挨拶などの用語とともに、それぞれの果たす役割を考えながら書くように指導することが有効である。

また、慣用的な語句や言い回しについて理解させるとともに、相手に応じた話題を取り上げることなどについて考えさせることが引き続き大切である。

3 文学的な文章を読む

③は、文学的な文章を読んで、比喩を手掛かりにしながら文脈をたどり、内容を理解すること、比喩という言葉と結び付けて、表現の仕方を理解することができるかどうかをみるものである。設問一では、比喩を手掛かりにしながら文脈をたどり、内容を理解することができるかどうかについて、設問二では、比喩という言葉と結び付けて、表現の仕方を理解することができるかどうかについて、それぞれ短答式で問われている。

【設問一】比喩を手掛かりにしながら文脈をたどり、内容を理解すること

- ・「よく熟した夏ミカン」に対応する東京の情景を本文中から抜き出す設問では、正答率が高いものの、全国の平均正答率と比べて、やや下回っている。

【設問二】比喩という言葉と結び付けて、表現の仕方を理解すること

- ・「この村の月は、まるでよく熟した夏ミカンだ」に使われている表現の技法の名称を書く設問では、全国の平均正答率を上回っている。

「読むこと」領域における、「文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること。」については、正答率が高いものの、全国の平均正答率と比べて、やや下回っている。また、同じ領域の「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。」については、全国の平均正答率を上回っているが、正答率は高くない。

文学的な文章を読む際には、比喩などの表現の技法に着目して、場面の情景や登場人物の心情などを捉えるように指導することが引き続き大切である。また、表現の技法については、小学校において具体的な表現に即して指導していることを踏まえ、中学校では文章中に出てきた具体的な表現から、「比喩」、「反復」などの表現の技法の名称を確認したり、多様な表現の技法について体系的に整理したりする指導が重要である。

4 スピーチをする

④は、スピーチをする際に、聞き手や場面を意識して、適切な語句を選択して話すこと、話し言葉と書き言葉との違いを理解し、適切に使うことができるかどうかをみるものである。設問一では、聞き手や場面を意識して、適切な語句を選択して話すことができるかどうかについて、設問二では、話し言葉と書き言葉との違いを理解し、適切に使うことができるかどうかについて、それぞれ短答式で問われている。

【設問一】聞き手や場面を意識して、適切な語句を選択して話すこと

- ・「難易度が高くなるので」を聞き手に分かりやすい表現に直す設問では、全国の平均正答率と比べ

て、やや上回っている。

【設問二】話し言葉と書き言葉との違いを理解し、適切に使うこと

- ・「生徒会活動（小学校……児童会活動）」を場に応じた話し言葉にする設問では、全国の平均正答率を上回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における、「話の内容や意図に応じた適切な語句の選択、文の効果的な使い方など説得力のある表現の仕方に注意して、話したり聞き取ったりすること。」については、全国の平均正答率と比べて、やや上回っており、正答率も高い。また「言語事項(1)」の「話し言葉と書き言葉の違いについて理解し、適切に使うこと。」については、全国の平均正答率を上回っているが、正答率は高くない。

スピーチをする際には、話し言葉と書き言葉との違いを踏まえた上で、聞き手に分かりやすい表現を用いるように指導することが引き続き大切である。スピーチ原稿を書かせる場合も、話すことを前提としたものであることを意識させる必要がある。互いの原稿を読み合ったり、スピーチを聞き合ったりする言語活動を通して、実際にどのように声に出してスピーチをするのかを考えさせることが大切である。また、スピーチ原稿を読むこととメモなどを見ながら話すこととの違いを意識した上で、メモのみを用いてスピーチすることができるように指導することも重要である。その際、「()」、「……」、「→」などの表記やナンバリング、箇条書きなどを用いた簡潔なメモの作り方についても指導することが有効である。

5 図を用いた文章を書く

⑤は、図を用いた文章を書く際に、伝えたい事柄を明確にして書くこと、必要な情報が相手に伝わるように説明することができるかどうかをみるものである。設問一では、伝えたい事柄を明確にして書くことができるかどうかについて、選択式で問われている。設問二では、必要な情報が相手に伝わるように説明することができるかどうかについて、短答式で問われている。

【設問一】伝えたい事柄を明確にして書くこと

- ・文章の特徴として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問二】必要な情報が相手に伝わるように説明すること

- ・文鎖について説明する一文を書き加える設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

「書くこと」領域における、「文章の形態に応じて適切な構成を工夫すること。」及び「自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと。」については、全国の平均正答率と比べて、やや上回っており、正答率も高い。

図などを用いて説明する文章を書く際には、図で示す内容と文章で示す内容とを整理した上で、図と適切に関連させて文章を書くように指導することが引き続き大切である。また、相手や目的に応じて必要な事柄を選び、読み手に分かりやすいように文章の展開を考えて書く必要がある。伝えたい事柄が的確に盛り込まれているか、全体の文脈に沿って個々の事柄が説明されているかなどを確認した上で書くように指導することが引き続き大切である。

6 説明的な文章を読む

⑥は、説明的な文章を読んで、文章の展開に即して内容を捉えること、目的に応じて必要な情報を読み取ることができるかどうかをみるものである。設問一では、文章の展開に即して内容を捉えることができるかどうかについて、短答式で問われている。また、設問二では、目的に応じて必要な情報を読み取ることができるかどうかについて、選択式で問われている。

【設問一】文章の展開に即して内容を捉えること

- ・「このような現象」が何と呼ばれているかを本文中から抜き出す設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問二】目的に応じて必要な情報を読み取ること

- ・取扱い絵表示の内容に加えて気を付けなければならないこととして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

「読むこと」領域における、「文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること。」については、文章の展開に即して内容を捉えることは、全国の平均正答率と比べて、やや上回る結果となった。一方、目的に応じて必要な情報を読み取ることは、全国の平均正答率を上回っているが、正答率は高くない。

説明的な文章を読み、文章の内容を捉える際には、中心となる話題や重要な言葉がどのように言い換えられたり、繰り返し用いられたりしているのかを考えさせる必要がある。併せて、段落相互の関係や文章の展開を捉えた上で、内容を正確に理解するように指導することが大切である。

また、目的に応じて必要な情報を読み取る際には、自分にとって必要な事柄を明確にし、それに応じて情報を取捨選択しながら読み進めるように指導することが大切である。そのためには、例えば全員が同じ目的で読むだけでなく、同一の教材を用いた学習であっても、個々に異なる目的をもって文章を読んで必要な情報を整理することなどが考えられる。

7 言語事項等

7は、言語や言語文化に関する知識・技能を身に付け、文や文章の中で適切に用いることができるかどうかをみるものである。設問一では、文脈に即して漢字を正しく書くことについての三つの設問、設問二では、文脈に即して漢字を正しく読むことについての三つの設問、設問三では、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについての五つの設問、設問四では、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについての二つの設問、設問五では、はがきの書き方を理解して書くことについての設問、設問六では、ひらがなで表記された作品をローマ字で書くことについての設問及びローマ字で表記された作品名を読み、ひらがなと漢字で正しく書くことについての設問、設問七では、抽象的な概念を表す語句について理解することについての設問及び歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことについての設問、設問八では、漢字の音読みと訓読みについて理解すること及び辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉えることについての設問で構成されている。

【設問一】文脈に即して漢字を正しく書くこと

- 1 「招待」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率を下回っている。
- 2 「単位」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。
- 3 「借(りる)」を文脈に即して書く設問では、全国の平均正答率と比べて、やや下回っている。

【設問二】文脈に即して漢字を正しく読むこと

- 1 「相違」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比べて、やや下回っている。
- 2 「沈殿」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率を上回っている。
- 3 「採(る)」を文脈に即して読む設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問三】語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと

- ア 適切な語句(「調和」)を選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。
- イ 適切な敬語(「いらっしゃる」)を選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。
- ウ 適切な語句(「かける」)を選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。
- エ 適切な敬語(「たなびく」)を選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。
- オ 適切な語句(「いかなる」)を選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問四】語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。

- ・適切な対義語(受信)を選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。
- ・適切な対義語(理想)を選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問五】はがきの書き方を理解して書くこと。

- ・はがきの表書きを書く設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問六】ひらがなで表記された作品名をローマ字で書いたり、ローマ字で表記された作品名を読み、ひらがなと漢字で正しく書くこと。

- ・ローマ字(たけくらべ)で書く設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。
- ・ローマ字(Tosa nikki)を読む設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問七】抽象的な概念を表す語句について理解することと、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと。

- ・「諸行むじやう」を漢字で書いたものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を

上回っている。

- ・歴史的仮名遣い（あらはす）を現代仮名遣いに直す設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問八】漢字の音読みと訓読みについて理解することと、辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉えること。

- ・漢字の音読みと訓読みの説明として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。
- ・漢和辞典の「意味」の中から、「観光」の「光」の意味として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

「言語事項」における、「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうか。」のうち、「『借りる』の漢字を書く」については、全国の平均正答率と比べて、やや下回っていた。また、「『招待』の漢字を書く」については、全国の平均正答率を下回っており、無解答率も高かった。漢字を書くことの指導においては、漢字の字形や画数、読みや意味などの基本的な事項を確実に指導する必要がある。その際、部首に着目させたり、同じ漢字を用いた他の語句と関連させたりしながら、漢字についての理解を深めていく指導を工夫することが大切である。

「文脈に即して漢字を正しく読むことができるかどうか」のうち、「『相違』の漢字を読む」については、全国の平均正答率と比べて、やや下回っており、無解答率も高い。漢字を読むことの指導においては、文脈の中で意味を理解しながら読むことができるように指導することが大切である。

その他の設問については、全国の平均正答率を上回っている、あるいは、やや上回っている状況である。しかしながら「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことができるかどうか（「たなびく」の意味を理解し、文脈の中で適切に使う）」については正答率が低い。語句の指導においては、辞書で示されている意味を指導するだけでなく、多様な言語活動の中で適宜注意を促して、文脈上の意味を考えさせることが大切である。

設問別調査結果 [中学校国語 B:主として活用]

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象設問数(問)	平均正答率(%)	
			札幌市	全国(公立)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	○	59.9
	書くこと	4	○	57.4
	読むこと	5	○	61.5
	言語事項	0		
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	○	49.0
	話す・聞く能力	3	○	59.9
	書く能力	4	○	57.4
	読む能力	5	○	61.5
問題形式	言語についての知識・理解・技能	0		
	選択式	5	○	67.7
	短答式	1	○	54.3
	記述式	3	○	49.0

表中の札幌市と全国との比較における記号は以下の基準により表記した。
 ○・・・+3.1ポイント以上
 ◇・・・+0.1ポイント～3.0ポイント
 ……ほぼ同程度
 ◆・・・-0.1ポイント～-3.0ポイント
 ●・・・-3.1ポイント以下

設問別集計結果

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点				問題形式			札幌市	全国(公立)		
			話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	正答率(%)	正答率(%)
1-1	対談での発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する	相手の話を踏まえて話す	○				○				○			◇	0.4	79.2	0.4
1-2	対談の展開を整理したものとして適切なものを選択する	話の展開に注意して聞く	○				○				○			◇	0.4	88.8	0.4
1-3	これからのような言葉の使い方をしたいのかを具体的な言葉の例を挙げて書く	相手の発言を注意して聞き、自分の考えを書く	○	○			○	○	○			○		○	12.0	19.7	13.9
2-1	「被写体」を言い換えている言葉を本文中から抜き出す	文脈中における語句の意味を捉える			○				○			○		○	3.9	54.3	4.9
2-2	祖母向けの説明書の工夫として適切なものを選択する	効果的に伝わるように、内容や表現の仕方を工夫して書く		○					○		○			◇	0.4	82.5	0.5
2-3	祖母向けの説明書の一部を書く	資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事項が明確に伝わるように書く		○	○				○			○		◇	7.2	68.4	8.1
3-1	物語について説明したものとして適切なものを選択する	物語の展開や表現の特徴を捉える			○				○		○			◇	0.7	61.6	0.8
3-2	物語に描かれている季節を選択する	物語の場面の展開を捉える			○				○		○			○	0.5	54.2	0.7
3-3	朗読の仕方の工夫とその理由を書く	物語の内容や登場人物の言動の意味などを捉え、自分の考えを書く	○	○			○	○	○			○		○	12.5	55.9	13.6

【設問別分析】

1 対談を聞く（「美しい日本語とは」）

①は、対談を聞いて、相手の話を踏まえて話すこと、話の展開に注意して聞くこと、相手の発言を注意して聞き、自分の考えを書くことができるかどうかをみるものである。設問一では、相手の話を踏まえて話すことができるかどうかについて、設問二では、話の展開に注意して聞くことができるかどうかについて、それぞれ選択式で問われている。設問三では、相手の発言を注意して聞き、自分の考えを書くことができるかどうかについて、記述式で問われている。

【設問一】相手の話を踏まえて話すこと

- ・対談で発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問二】話の展開に注意して書くこと

- ・対談の展開を整理したものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問三】相手の発言を注意して聞き、自分の考えを書くこと

- ・これからのような言葉の使い方をしたいのかを具体的な言葉の例を挙げて書く設問では、全国の平均正答率を上回っている。

「話すこと・聞くこと」領域における、「自分の考えや気持ちを的確に話すためにふさわしい話題を選び出すこと。」及び「話の中心の部分と付加的な部分、事実と意見の関係に注意し、話の論理的な構成や展開を考えて、話したり聞き取ったりすること。」については、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

また、同じ領域における、「話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、それぞれの発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。」及び「書くこと」領域における、「自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと。」については、全国の平均正答率を上回っているが、正答率が低く、無解答率も高い。

対話や討論などを行う際には、目的を明確にした上で、話題に沿って効果的に話が展開するように、相手の考えを踏まえて話したり、自分の発言が話の展開に及ぼす影響を考えて話したりするように指導することが引き続き大切である。また、発言の当事者でない第三者にも目的をもって参加させることが大切である。その際、話合いの内容について評価したことを、自分が発言の当事者になったときに生かせるようにすることが引き続き大切である。

対話や討論などの内容を基に自分の考えを書く際には、発言の内容（誰が何に対してどのように述べたか）を取り上げて、話題に対する自分の考えを明確に書く必要がある。そのためには、話し手の考えに対する賛否などを示すだけでなく、自分の体験や読書の経験などに基づいた具体例を挙げるなどして、自分の考えを分かりやすく書かせるような言語活動を取り入れることが大切である。

2 説明的な文章を書き換える（使用説明書）

2 は、説明的な文章を目的や意図に応じて書き換える際に、文脈の中における語句の意味を捉えること、効果的に伝わるように、内容や表現の仕方を工夫して書くこと、資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書くことができるかどうかについてみるものである。設問一では、文脈の中における語句の意味を捉えることができるかどうかについて短答式で、設問二では、効果的に伝わるように、内容や表現の仕方を工夫して書くことができるかどうかについて選択式で、設問三では、資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書くことができるかどうかについて記述式で、それぞれ問われている。

【設問一】文脈の中における語句の意味を捉えること

- ・「被写体」を言い換えている言葉を本文中から抜き出す設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問二】効果的に伝わるように、内容や表現の仕方を工夫して書くこと

- ・祖母向けの説明書の工夫として適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問三】資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書くこと

- ・祖母向けの説明書の一部を書く設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

「読むこと」領域における、「文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解すること。」については、全国の平均正答率を上回っている。

また、同じ領域における、「書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること。」及び「書くこと」領域における、「自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書くこと。」については、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

説明的な文章を読む際には、文脈の中における語句の意味を的確に捉えるとともに、筆者がその語句を用いた意図について考えるように指導することが必要である。

説明する文章を書く際には、相手や目的に応じて内容や表現の仕方を工夫する必要がある。指導においては、伝えたい情報を選び、説明の順序、ふさわしい語句や表現を考えさせることが引き続き必要である。

説明する文章を相手や目的に応じて書き換える際には、構成や記述を工夫する必要がある。指導においては、伝えたい情報を正確に理解した上で整理し、その情報が効果的に伝わるように説明する順序を考えたり説明する際に図表を用いたりするなどの工夫をさせることが大切である。その上で、実際に書いた文章を相手の立場に立って読み返し、より分かりやすい文章になるように指導することが重要である。

3 物語を朗読する（「二ひきの蛙」）

③は、物語を朗読する際に、物語の展開や表現の特徴を捉えること、物語の場面の展開を捉えること、物語の内容や登場人物の言動の意味などを捉え、自分の考えを書くことができるかどうかをみるものである。設問一は、物語の展開や表現の特徴を捉えることができるかについて、設問二は、物語の場面の展開を捉えることができるかどうかについて、それぞれ選択式で、設問三は、物語の内容や登場人物の言動の意味などを捉え、自分の考えを書くことができるかどうかについて記述式で問われている。

【設問一】物語の展開や表現の特徴を捉えること

- ・物語について説明したものとして適切なものを選択する設問では、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。

【設問二】物語の場面の展開を捉えること

- ・物語に描かれている季節を選択する設問では、全国の平均正答率を上回っている。

【設問三】物語の内容や登場人物の言動の意味などを捉え、自分の考えを書くこと

- ・朗読の仕方の工夫とその理由を書く設問では、全国の平均正答率を上回っている。

「読むこと」領域における、「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。」については、全国の平均正答率と比べて、やや上回っている。また、同じ領域の「文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること。」については、全国の平均正答率を上回っている。

「書くこと」領域における、「伝えたい事実や事柄、課題及び自分の考えや気持ちを明確にすること。」については、全国の平均正答率を上回っているが、無解答率が他の設問と比べ高くなっている。

文学的な文章を読む際には、作品の内容を理解するだけでなく、表現の特徴についても考えるように指導する必要がある。その際、語りと登場人物の会話との違いに注意して音読させることも有効である。また、それぞれの場面がどのように設定されているか（時・場所・人物など）を本文中の言葉に即して捉えることが大切である。指導においては、それぞれの場面がどのように展開しているか捉えさせるとともに、登場人物の心情や行動、情景描写などに注意して読ませることが重要である。

文学的な文章を朗読する際には、生徒一人一人が自分なりに解釈したことに基づいて声に出して表現させることが大切である。指導においては、読み方を決める上での解釈を明らかにさせるとともに、声の出し方についての具体的な工夫（緩急、強弱、間の取り方など）について考えさせることが重要である。

国語学習に関する意識調査

質問事項	選択肢			
	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかというと、当てはまらない	当てはまらない
国語の勉強は好きですか	24.4	37.8	26.2	11.4
国語の勉強は大切だと思いますか	59.3	32.4	5.8	2.4
国語の授業の内容はよく分かりますか	23.5	51.1	20.4	4.7
読書は好きですか	53.0	22.5	14.1	10.2
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	44.5	39.9	11.5	3.8
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	11.7	35.7	39.7	12.8
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか	11.0	34.4	41.5	12.9
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか	19.5	43.1	28.7	8.5
国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりと共に内容を理解しながら読んでいますか	24.5	44.3	24.0	7.0

(単位は%)

＜設問分析＞

- 「国語の勉強は好きですか」という質問では、肯定的に回答した割合が 62.2%となっており、全国平均を 3.6 ポイント上回っている。今後とも、生徒の興味・関心を引き出し、意欲を高める指導を工夫していくことが求められる。
- 「国語の勉強は大切だと思いますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 91.7%となっており、全国平均を 1.4 ポイント上回っている。学習した内容が生活の中で活用され、生徒に国語の必要性を感じさせるような授業づくりが展開されてきたことの成果だと思われる。
- 「国語の授業の内容はよく分かりますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 74.6%となっており、全国平均を 3.4 ポイント上回っている。分かる授業づくりに向けて工夫改善が図られてきたことが伺える。
- 「読書は好きですか」という質問では、肯定的に回答した割合が 75.5%となっており、全国平均を 5.8 ポイント上回っている。現在、札幌市では、「読書」を生涯にわたる学びの基盤と押さえて、各学校における朝読書の定着が進んでおり、今後ともあらゆる機会を通じて、読書に親しむ活動を積極的に展開していくことが求められる。
- 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 84.4%で、全国平均を 1.3 ポイント上回っている。言語活動の充実が国語科を中心として、全教科で求められているところであり、今後とも生徒が国語の学習の有用性を感じるような工夫した学習指導の展開が求められる。
- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」という質問では、肯定的に回答した割合が 47.4%となっており、全国平均と比較すると 3 ポイント下回っている。

る。資料を有効に活用して、根拠を明確にして自信をもって作品を批評したり意見を述べたりすることができるような指導の工夫が引き続き求められる。

- 「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」という質問では、肯定的に回答した割合は 45.4%となっており、全国平均と比較し 0.2 ポイント下回っている。自分の意見が相手（聞き手）に正確に伝わるように心がけることは、日常の言語活動においても大切なことであり、あらゆる機会を通じてよい面を積極的に評価しながら、場面や相手に応じた効果的な話し方を意識させる指導の充実が一層求められる。
- 「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか」という質問では、肯定的に回答した割合は 62.6%で、全国平均を 3.2 ポイント上回っている。根拠を明確にして書くことは、説得力のある表現につながることであり、指導の改善、充実が図られた成果であると考えられる。今後とも、書くときの心構えとして一層意識させる指導の充実が望まれる。
- 「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいますか」という質問では、肯定的に回答した割合は 68.8%となっており、全国平均を 3.2 ポイント上回っている。文章の構成や工夫された表現を、書き手の意図を考えながら読み進めていくことは、同時に中心的な部分と付加的な部分や事実と意見を区別しながら読むことにもつながり、要約する学習にも効果的な読み方であるので、今後とも一層の指導の充実が求められる。